

令和5年9月21日

ALIC/NAIF 定期情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、財団法人（台湾）中央畜産会（NAIF）と定期情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本および台湾の畜産をめぐる情勢などについて意見交換を行う場として、原則として毎年度、交互に開催しており、今回で通算13回目の開催となりました。

記

1 日 時：令和5年9月14日（木）午前9時00分～12時00分

2 場 所：台北市（NAIF502会議室）

3 参加者

ALIC

天羽 隆（理事長）ほか

NAIF

林 聰賢（董事長）、王 旭昌（執行長代理）ほか

4 会議内容

林董事長と天羽理事長の挨拶の後、日本および台湾の畜産をめぐる情勢などについて説明し、意見交換を行った。

<NAIFからの説明概要>

台湾の豚肉サプライチェーンの現状などを中心に、以下の説明があった。

（1）台湾の養豚産業の概況

- ・2022年末時点において、養豚場は約6000か所、飼養頭数は約530万頭。と畜頭数は約785万頭、と畜量は約80万トンであり、生産額は789億台湾元（1台湾元＝4.5円換算で約3550億円）。豚肉の自給率は90%。

- ・豚肉の年間輸入量は約9万トン。スペイン、カナダ、デンマークなどからの輸入が多い。その多くが加工または飲食店での提供に利用。
- ・直近10年間、豚の取引重量と取引金額は増加傾向、と畜頭数は減少傾向。

(2) 台湾の豚肉サプライチェーンの現状

- ・常温での生鮮豚肉の販売が全体の72.5%を占めており、依然として主流。
- ・政府は消費者の安全を確保するため、豚肉売場への温度管理が可能なショーケースの導入、と畜輸送車両への温度管理設備の装備などを推進。コールドチェーンの構築、整備を目指す。

(3) 豚肉サプライチェーンのリスク管理措置

- ・豚熱の根絶プログラム（注）並びにアフリカ豚熱侵入防止のための動物検疫およびサーベイランスの推進など、家畜疾病対策を通じた養豚農家の経営安定を図る。
- ・豚肉のトレーサビリティ管理、原産地表示、食品加工業者における品質管理の徹底などを通じた食品安全の確保を図る。

（注）2021年から開始されたプログラム。①全面的なワクチン接種→②ワクチン接種の段階的な停止→③清浄地域認定に向けたWOAH（国際獣疫事務局）への申請の3段階で構成。現在、②の段階。

問い合わせ先

調査情報部 平山、山崎

電話 03-3583-9530